

住民が安心して住み続けられるための地域医療を！

地域医療を守る共同行動 みやぎ連絡会

News

2023.6.30.FRI No.142

発行／地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会事務局
〒983-0047 仙台市宮城野区銀杏町39-18（民医労内）
TEL 022-782-0633／FAX 022-782-0634

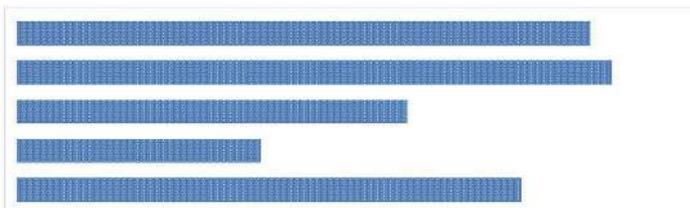
精神障害にも対応した地域包括ケアシステム 県立精神医療センター富谷市移転を考える

「令和3年度 宮城県立精神医療センター病院年報」から一部抜粋

<外来患者数推移>

令和3年 37,373人（1日平均154.4人） 前年比 1,742人（%）増

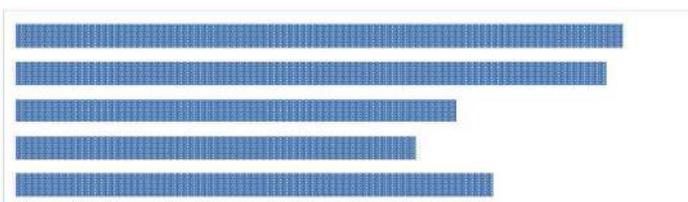
平成29年度	37,837人
平成30年度	37,979人
令和元年度	36,613人
令和2年度	35,631人
令和3年度	37,373人



<デイケア・ショートケア>

令和3年 3,210件／年（前年2524件） 前年比 686件（%）増

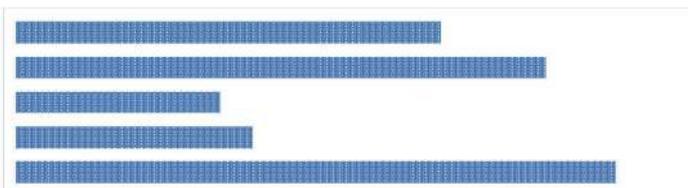
平成29年度	6,316件
平成30年度	6,148件
令和元年度	4,583件
令和2年度	4,164件
令和3年度	4,964件



<訪問看護>

令和3年 4,773件／年（1日平均19.5件） 前年比134件増（1日平均0.5件増）

平成29年度	4,708件
平成30年度	4,747件
令和元年度	4,625件
令和2年度	4,638件
令和3年度	4,773件



緊急討論

私たちのことは、 私たち抜きに決めないで!

～4病院再編・統合・移転～

2023.7.1 (土)

14:30～16:30

宮城野区文化センター
パトナシアターホール
(仙石線 陸前原ノ町駅)

村井知事が主導する仙台圏4病院の再編・統合構想は県民の間に大きな波紋をよんでいます。何より、病院利用者や地域からの切実な声は知事の耳に届いているのでしょうか。現在まで明らかになっている問題や課題を掘り下げ、地域医療のあり方と県が担うべき役割を明らかにしたいと思います。

◆ 問題提起① 岩館敏晴氏(宮城県精神科病院協会会長)

精神医療センターの富谷移転 ～日本経営による報告書の検討～

◆ 問題提起② 原 敬造氏(宮城県精神神経科診療所協会顧問)

宮城県精神保険審議会の議論状況、精神医療センター富谷移転の問題点

◆ 発言 ユーザーズアクション(宮城県精神医療センター)

労災病院・日赤病院当事者から
県議会議員の皆さん
会場から

呼びかけ人

小泉 潤 (名取メンタルヘルス協会理事長)

島田福男 (宮城県自治会連合会会長・川平学区連合町内会会長)

新里宏二 (弁護士・ともに市政をつくる仙台市民の会会長)

連絡先 新里・鈴木法律事務所 022-263-3191





宮城県知事記者会見
(2023年6月26日)
「県内4病院の再編について」
<https://youtu.be/bJ3RUDkHJD8?t=452>

● Q／ 議会の議論を見ていると、新病院の診療科とか県南の精神科患者さんの行き場とか、そういう具体的なところが見えないという指摘に対して、県側は、基本合意に向けて検討しているというようなQとAの関係だったと思うが、基本合意ができてこないと具体的な説明ができないし、具体的な説明がないからよく分からなくて心配とか不安とか懸念があるというような状況だと思う。基本合意は年度内の早い時期にという説明をされているので、この状況が例えば9月議会のときも同じような話が繰り返されるのではないかと懸念があるのだが、この状況で、6月議会はまだ途中だが、議会に入ってしまうのか、次の議会までには何らかの説明する内容が追加されるのか、そこら辺についていかがか。

■ 村井知事／ まだ分からないんです、これは。今の段階では何とも申し上げられないんですが、できるだけ早くと言っている以上、間に合えば9月議会、間に合わなければ11月議会に、なるべく早くしたいとは思っています。話は少しずつは進んではいるんですけども、当然お互い主張すべきこともたくさんございますので、もう少しお時間をいただきたいと思えます。

● Q／ 一方で、議会側ないし当事者の方とかが心配されているのは、基本合意というふうに固まってしまうと、そこから調整は一切利かないのではないかと懸念もある。民間とこれで話がまとまっているので、説明するけれども、ここから懸念点とか修正は利かないよというふうになってしまうのではないかと懸念もあるが、そこについてはいかがか。

■ 村井知事／ 1年半前の知事選挙で、私はこれを公約に掲げて、富谷と名取にということで話を進めていましたので、それを受けて、相手の候補も、対抗馬の方も、絶対反対だというふうに主張されたわけですから、当選した以上、これを県民に向けて選挙のときに約束したことを実現するために全力を尽くす、これは当然のことだと私は思います。これは公約ですので、実現するために行う、実現するために最大限努力するというのは当然の姿だと思いますので、今おっしゃったように、話をゼロベースで進めるということは私は基本的にはできないだろうと考えております。

● Q／ 私が今伺ったのは、ゼロベースに戻すとかということではなくて、基本合意で決まったことでも、いろいろな外部の方から見ると、ここはどうなんだとか、こうしたほうがもっと、再編移転するにしてもこうしたほうがいいんじゃないのという懸念みたいなものが、例えば9月議会とかでもやり取りがあるだろうし、基本合意を発表した後に、いろいろな関係団体から、いや、こういうふうに基本合意したかもしれないが、ここはこうしたほうがモアベターだよというような意見が出ると思う。そこで、民間とこれで合意しちゃったのだからそこは変わらないよというふうになってしまうと、そこで議論はストップしてしまうと思うが、そこについての余地はないのかあるのかということなのだが。

■ 村井知事／ 今までいただいた意見をベースに、それを基本合意にできるだけ反映できるようにということで今調整をしておりますが、いただいているご懸念がある程度解消されるような形で基本合意に持っていきたいと思っております。従って、基本合意が出たら、だいたい皆さんが程度分かっていたようなものにしたいたいと思っております。そこからまた微修正ということは十分あり得ると思えますが、大きく変えることは基本的にないだろうと考えているということです。ですから、ちょっと慎重に丁寧にやっているということです。

● Q／ 4病院の関係で、間に合えば9月議会までに基本合意をするという方針で、間に合わなかったとしても11月議会までには基本合意を結びたい、そういう趣旨の発言と理解していいか。

■ 村井知事／ そうではなく、できるだけ早くと言ったので、できれば9月、間に合わなければ11月、それでも間に合わなければ2月議会ということなんです、年度内の早い段階でと言いましたの

で、できるだけ前倒しでやりたいと思っています。労災病院さんと日赤さんのご意向を聞きながらです。私どもだけで意思決定できないということをご理解いただきたいと思うんですけれども。

● Q／ 話し合いは少しずつ進んでいて、もう少し時間が欲しいという話だと思うが、なかなか公にはできないと思うが、県民の方にとって、どこがネックになっているのかを知りたいという要望もあると思う。協議がなかなか進まないというかまとまらない最大のネックはどこら辺にあるのか。

■ 村井知事／ これはなかなか一概には言えないんですけれども、人の問題もあれば、経営の問題もあれば、病院内での意思決定の時間も必要だというようなこともあれば、当然そこで働いている方がおられますので、働いている方のご理解をいただきながら、診療科をどうすればいいのか、病床数をどうすればいいのか、それによって経営がどういう状況になるのか、これを当然いろいろ細かい議論を病院の中でもされているということだと思います。

● Q／ 現状では何合目か。

■ 村井知事／ そうですね、7合目のちょっと手前ぐらいまで来たかなという感じです。

● Q／ 五、六合目だったので、ちょっとは進んでいるのか。

■ 村井知事／ 進んでいます。



仙台市長記者会見

(2023年6月27日)

「4病院再編等について」

https://youtu.be/W_gia6h7Lp4?t=1509

● Q／ 4病院再編の構想に関して、知事が会見で、(進ちよくについて) 7合目のちょっと手前という表現で現状の認識を語られましたけれども、それに対する、市長としてどうこの言葉を受け止めたのかというのを教えていただけますか。

■ 郡市長／ いずれにしても県が主導して始められたことですので、いろいろな方々のいろいろなご意見がある中で、ご心配の方々もおられますので丁寧にご説明をいただく、いろいろ声を拾っていただくということが重要ではないかと思っています。

● Q／ 5合目、6合目ときて、7合目の手前ということなのだと思うのですが、この少しずつ進ちよくしている状況というのは、何か県から説明というのはその都度あるものなのでしょうか。

■ 郡市長／ いや、具体的には事務方で何かやり取りがこの間あったかどうか確認をしておりますけれども、私が承知している段階では県としての方針はこうだということはおありのようですけれども、それならばこの疑問点にはどのようにお答えいただけるのですかということについて正式に明快な回答がないので、これはいかがかというふうにもこの間も申し上げているところです。

● Q／ なかなか状況が分からないというか、正式な報告がない中で少しずつ合が上がっていくということについては、何か感じるところはあるのでしょうか。

■ 郡市長／ 重ねてになりますけれども、いろいろな疑問、不安を解消していただくということが大変重要であるということと、いろいろな疑問の声がある中で拙速に進められないことを望みたいと思います。

記者手帳

病院移転個々の問題？

○：22日の県議会6月定例会一般質問で、渡辺拓氏(自民党・県民会議)が仙台医療圏4病院の再編構想を巡る住民への説明不足をただした。村井嘉浩知事は再編相手の民間2病院が説明する際は協力するなど答

弁。渡辺氏が「わがこととしてやるべきだ」と食い下がったところ…。

なぜか知事は仙台市内で近年移転した無関係の2病院を持ち出し、これらにも県が関与するのかと反論。構想を主導しながら「病院の個々の移転問題」と突き放す姿勢に、議場はどよめいた。

【速報】宮城4病院再編 村井知事「7合目のちょっと手前」 合意時期は明言せず

<https://kahoku.news/articles/20230626khn000009.html>



2023年6月26日 河北新報

宮城県の村井嘉浩知事は26日の定例記者会見で、県が主導する仙台医療圏4病院の再編構想を巡り、日本赤十字社、労働者健康安全機構のそれぞれと本年度中の締結を目指す基本合意の協議状況について「7合目のちょっと手前」と、登山に例えて説明した。

1月の年頭記者会見では「まだ5合目と6合目を行ったり来たり」と話していた。村井知事は「(合意時期は)まだ分からない。年度内のできるだけ早く合意したい」と述べた。

日赤は仙台赤十字病院(仙台市太白区)、安全機構は東北労災病院(青葉区)の運営主体。構想では仙台赤十字と県立がんセンター(名取市)を統合して名取市に、東北労災と県立精神医療センター(同)を合築して富谷市に、それぞれ新病院を建設する。

2023年6月27日 河北新報

病院と協議「7合目手前」

再編構想で知事が認識

県が主導する仙台医療圏4病院の再編構想で、仙台赤十字病院(仙台市太白区)と東北労災病院(青葉区)の運営主体とそれぞれ締結を目指す基本合意に向けた協議状況について、村井嘉浩知事は26日の定例記者会見で「7合目のちょっと手前」と登山に例えて説明した。

1月の年頭記者会見では「まだ5合目と6合目を行ったり来たり」と話していた。2月に県とそれぞれの運営主体が今後の協議事項に関する確認書を交わしてから4カ月たったが、なお一進一退の様子がうかがえる。

村井知事は「(患者や地域住民、専門家の)懸念がある程度、解消される形で基本合意に持っていきたい。そのために慎重に丁寧

「(再編相手の)病院内の意思決定の時間が必要というところもある」とも語った。合意時期については「まだ分からない。年度内のできるだけ早い時期にした」との説明を繰り返した。

仙台赤十字病院は日本赤十字社、東北労災病院は労働者健康安全機構が運営する。再編構想では仙台赤十字と県立がんセンター(名取市)を統合して名取市に、東北労災と県立精神医療センター(同)を合築して富谷市に、それぞれ新病院を建設する。

4病院再編 仙台市議選で論戦期待 市長、県に慎重な検討要望

郡和子仙台市長は27日の定例記者会見で、県が主導する仙台医療圏4病院の再編構想が市議選（7月21日告示、30日投票）の論戦テーマに「なり得る」との認識を示した。市民に対す

る県の説明が不十分と捉える姿勢を崩さず、「（候補者に）議論の進め方について意見を戦わせてほしい」と期待した。

県が市内2病院の運営主体とそれぞれ締結を目指す

基本合意の協議状況に関して、村井嘉浩知事は26日に「7合目のちよっと手前」と説明した。郡市長は「市民、患者らの疑問や不安を解消することが重要。拙速に進めないことを望む」と

述べ、県に十分な情報開示や慎重な検討を求めた。

市議選は東日本大震災の影響で県議選と日程が分かかれ、投票率が低迷する。郡市長は、市内の映画館や街頭の大型ビジョンで投票を呼びかける映像を流す計画を明らかにした。「生活に密接に関わる選挙。白紙委任しないしてほしい」と訴えた。

新型コロナウイルスの感染は5類移行後も拡大傾向にあり、流行「第9波」への懸念が拭えない。「定点医療機関当たりの患者数は微増だが、医療の現場は逼迫していない」と強調し、推移を注視する意向を示した。

県議会から

具体的なことは検討中だが、悪いようにはしないから任せておけー。

県が主導する仙台医療圏4病院の再編構想を巡る県議会6月定例会の一般質問で、県の答弁を要約するところなるだろう。

県立がんセンター（名取市）と仙台赤十字病院（仙台市太白区）を統合する名取市の新病院についても、県立精神医療センター（名取市）と東北労災病院

4病院再編巡る県の答弁

「よろしむべし」は許されぬ

（青葉区）を合築する富谷市の新病院についても、新たな説明はなかった。

複数の議員が「患者の疑問に対する当然の説明責任が果たされていない」「詳細は協議中と言って再編を強行する姿勢ばかり目立つ」などと批判したが、県はあれこれと言葉を変えつつ従来の説明範囲を超えようとはしなかった。
当事者の声を反映するべきだ

との指摘に対し、村井嘉浩知事は精神障害がある当事者と15日に非公開で面会した内容を念頭に「移転に前向きな考えや期待感を示す当事者もいる。さまざま意見幅広く聞く重要性をあらためて認識した」と応じた。

のか、取り残される患者や家族はいないのかどうかであり、県は今定例会でその疑問に答えていない。

県と民間2病院の運営主体による再編協議の進み具合によっては、任期中最後の9月定例会も同じやりとりが繰り返される恐れがある。「よろしむべし、知らしむべからず」を許すのか。議会の正念場だ。
（報道部・関川洋平）

4病院再編構想 当事者らが討論

来月1日・仙台

県が主導する仙台医療圏

4病院の再編構想に反対する当事者や医療関係者が7月1日、仙台市宮城野区の区文化センターで、構想の問題点を話し合う討論会を開く。入場無料。

午後2時半開始。県立精神医療センター（名取市）の富谷市移転を巡り、県精神科病院協会の岩館敏晴会長が、県が4月21日に公表した新病院の方向性に関する医療コンサルタントの報告書を検討する。

県精神神経科診療所協会の原敬造顧問は、自身が委員を務める県精神保健福祉審議会が5月31日の会合で「現在の提案では県の考えを認められない」と議論を総括した経緯を報告する。

精神医療センター、県立がんセンター（名取市）とそれぞれ再編される、東北労災病院（仙台市青葉区）、仙台赤十字病院（太白区）の関係者らも発言する。

白石・刈田病院

小児科継続求め 市に署名を提出

市民団体

白石市の市民団体「地域医療を考える会」は26日、同市の公立刈田総合病院の小児科医師が今月末で退職

にするのに伴い、同科の継続などを求める2353筆の署名を市に提出した。

同会によると、署名は5月下旬～6月中旬に市内外で集めた。受け取った大内弘幸保健福祉部長は「病院には早急に後任を見つめるよう働きかけていて、既に選考段階に入っていると聞

いている」と説明した。